

【樹木・草花の部屋】

ツツジ（ツツジ科ツツジ属 Rhododendron）

和名；ツツジ（躑躅） 別名；

ツツジ目 常緑もしくは落葉性の低～高木

原産地；主に東アジア

花言葉；愛の喜び、情熱、初恋

花の色；赤、紅、白、紫、橙



⇒ 写真－1 ツツジの花

撮影日：2004年4月25日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者： Mさん

30年以上前に、我が家の南面の垣根のあしらいとして列植。

写真－2 ツツジの花 ⇒

撮影日：2004年4月25日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

現在はドウダンツツジとサラサドウダンの列植に交換中です。

ともかく低木として維持してきたため、幹も7～8cm(直径)にもなったものも・・・。



【樹木・草花の部屋】



写真-3 ↑ 撮影日：2010年4月16日 写真-4 ↑ 撮影日：2004年4月25日
共に 撮影場所：奈良県大和郡山市 M 邸にて 撮影者：M さん

<ちょっと一言>

ツツジ属の植物はだいたい常緑若しくは落葉性の低木から高木で、4月から5月の春先にかけて漏斗型の特徴的な形の花（先端が五裂している）を数個、枝先につけます。

花を上手に採ると花片の下から蜜を吸うことができ、小生もつい最近まで吸っていました。甘〜い味でした。レンゲツツジには**致死性になる毒**があるということを最近知りました。庭木として利用されている場合は取扱い要注意です。

日本では、ツツジは古くから園芸品種として交配され美しい品種がたくさん創られたようです。

江戸時代、久留米藩で創られたクルメツツジはサタツツジとヤマツツジ、ミヤマキリシマなどをかけ合わせて生まれたもので約 750 種。平戸藩で創られたヒラドツツジはケラマツツジ、タイワンヤマツツジ、モチツツジ、キシツツジなどを交配させたもので 350 種以上あるそうです。日本全国でよく見られる大型のツツジで、花も大きく街路樹としてもたくさん植栽されています。

アジアからヨーロッパに常緑のツツジが持ち込まれて園芸化された西洋のペリジアン・アザレア。日本のレンゲツツジや北アメリカの落葉の原種が園芸化されてエクスバリー・アザレアなどの西洋ツツジ（オランダツツジ）があります。

福岡県や静岡県では県の花、奈良県では御所市、高取町、曽爾村が市町村花としています。

我が家では、出来る限り低木を維持するため、花後にかなり切詰てきました。

剪定 本来、庭石などの裾あしらの存在のサツキやツツジが、今や大きな顔をして、いつしか庭の真ん中にどっしりと主木的存在に……。花後、切戻し、秋は軽剪定で過ごせばこんなにはなかったと思いますが……。年 1 回の剪定で毎年花を咲かせようとする気持ちが仇になっているのでは？ たまに、思い切った切詰を提案、実施すると、こんなところに、こんな庭石があったなんて……。すっきりした状態に結構、喜んでいただいています。ただし、ツツジの場合、大がかりな切詰をすると、翌年にはかなりの枝が出るので整枝が大変。小株の時から少なくとも前年枝までは刈落とす丁寧な刈込が必要だと思います。”